

TOWN

WYSSH教育でやる気を

県北2校で公開授業

子どもたちのやる気を引き出し、自尊心を育てる「WYSSH(ウィッシェ)教育」の公開授業がこのほど、延岡市緑ヶ丘小学校御手洗雄一校長と日向

市富島中学校黒木広充校長)であった。講師は、WYSSH教育の提唱者で、京都大学大学院准教授の木原雅子さん(62)＝社会疫学者＝。緑ヶ丘小6年



生徒から意見を引き出していくWYSSH教育提唱者の木原雅子さん(富島中)

生39人は「中学生デビュー」、富島中2年4組33人は「中学生の今を考えよう」をテーマに木原さんと一緒に考えた。

緑ヶ丘小では、来年春季から始まる中学校生活想像し「一番楽しみにしていること」など3項目についてグループワークで話し合い、目標を見つけていった。

富島中では、中だるみしがちな2年生の今だから考えておこうと、中学校卒業までに「やりたいこと」「やるべきこと」「直したいこと」をグループワークで話し合い、「自分に自信をつけるため部活動を頑張りたい」「将来のために勉強を頑張りたい」など決意宣言として発表した。

最後は、木原さんらスタッフが制作した中学生、高校生からのメッセージビデオを放映。友達って1人で、も、それで十分だと思っ「今は苦しくて、

それで人生決まるわけじゃない」「後悔しないために今を頑張っほしい」など、「先輩」たちの声に、児童生徒は真剣な表情で聞き入っていた。

木原さんは「一人一人違っているから世の中ってすてきたと思っ。そして人は必ず、すてきなものを持っている。目標を見つけて自分らしく輝いてほしい」と呼び掛けた。

また、公開授業では中学生で手にするものの多くなるスマートフォンについて、SNS(ソーシャル・ネットワーク)キング・サービス)で起きたトラブルの事例を基に、各グループで意見を出し合い、その危険性や、使う場合の心構えなどを考えた。

WYSSH教育はもとも、小中学生に性教育を正しく伝える観点から誕生したプロジェクト。現在は発展し「人づくり」の要素を多く含む。

県北では平成26年度から富島中で実践されており、今年度から緑ヶ丘小、延岡市の富島中学校でも取り組まれている。